平成２３年度「重点研究費」研究成果報告書

申請区分	B		配分額	750,000　円
研究課題	新学習指導要領における小学校国語科書写の「点画のつながり」に関する指導法の開発			

研究代表者

氏名	所属	職名
長野　秀章	美術・書道講座	教授

研究分担者

氏名	所属	職名
加藤　泰弘	美術・書道講座	准教授
細川　太輔	附属小金井小学校	教諭
清水　文博	附属小金井小学校	教諭

【研究成果の概要】　（文字の大きさ９ポイント・字数 800 字～1600 字）

標題のテーマで、附属小金井小学校の協力をいただき新しい学習指導要領におけるこの「点画のつながり」という観点から一定の成果を得ることができた。

1. 硬筆と毛筆の関連学習の在り方への提言

　従来から硬毛関連学習などといった言い方で学習指導要領に示されている「毛筆は硬筆の基礎」という課題に対して今回の「点画のつながり」という指導事項が、この硬毛関連学習を思考する上において新しい視点を生むこととなった。

　小学校においては、低学年の硬筆指導から中学年の硬筆に加え毛筆学習がスタートする。このことが、硬筆と毛筆が自ら関連するという前提で論じられ、また研究等も進められてきた。

　しかし、高学年の毛筆学習の指導事項にこの「点画のつながり」が新設されたことにより、中学年の毛筆指導、また硬毛関連学習において従来の学習で陥りやすかった硬筆は硬筆、毛筆は毛筆に分けた学習が結果的に進行してしまう傾向にあったが、中学年から高学年へと４学年見通した新しい毛筆指導の在り方を根本的に考え直す契機となった。

2. 小学校高学年における毛筆を中心とした点画のつながりの学習内容は、中学年における平仮名指導との連携の重要性をより一層確認できた。
3. 高学年の毛筆指導そのものに対して毛筆を使用するということを一層理解するための教材開発の必要性が今後の課題の一つとして残った。
4. 大学と附属との研究における一層の充実が今後も継続しなければならないことを研究者同志が強く感じ、これからも具体的共通のテーマを掲げ共同研究を推進しなければならない。
5. 今後の具体的な研究について
   1）書写において１単位時間の使い方は、毛筆を使用した時は特に毛筆中心、場合によっては毛筆のみの学習になりがちであったが、硬筆学習から毛筆学習という授業方法も児童の硬筆と毛筆の機能の違いを理解させるための授業自体の工夫改善をはじめとする、毛筆書写学習の効率化等教具教材の開発も一層の具体化を推進していかなくてはならない。
   2）毛筆の穂先の動きがより具体的に見える教具や、電子黒板などを活用した動的教材の開発が求められる。
   3）児童が毛筆の穂先の動きが一層理解できるような具体的な授業方法等の改善を図る。

研究成果発表方法

本年度の附属学校の研究会において発表予定